



ぼらんていあ通信

8月号
通巻 No.465

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2020年8月25日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: <http://sagamiva.info/>

委員会だより

今、傾聴活動は

傾聴委員長 西本 敬



若くて元気な頃は、PTAの仲間や話し手、子供会育成会で議論したり、スパーで会った友達の話に熱中したり、いろんな機会に誰かと話すことができた。でも、年齢とともに話す相手がいなくなってしまう、家には誰もおらず独りぼっち、自分の体調も思わしくなく、人と会うこともちょっと大変になってしまっている。そんな毎日、誰とも話していないなあとなってしまったらどうしますか？ そのような状況を改善するために少しでも役立てばと「傾聴ボランティア活動」を始めました。

傾聴委員会は新しい利用者を把握し、誰が傾聴ボランティアとして活動するのか、新しい活動メンバーの活躍の場を探しながら活動調整をしています。

しかしながら、このところの新型コロナウイルス感染症防止の観点から、委員会も今年度やっと一回開催できたところです。緊急事態宣言解除後に恐る恐る活動を再開しましたが、目下の状況の中でどうするのか、悩みは深いものがあります。コロナの世界は厳然と継続しています。そのコロナは日常化

し、コロナだからと何もしなければ、社会は収縮し、孤独な人はずっとそのままになってしまっています。

最大限の注意を払いながら、恐る恐る着実な活動の歩みを進めていきたい。そう思っています。今、大切にしている約束事は下記の通りです。

◆ 傾聴の日は、体温を測定し、37℃以下であることを確認し、手洗い、消毒をして訪問する。相手方への入室直前に手消毒することが望ましく。

◆ 訪問時にはマスクを着用するが、利用者にも必ずマスクを着用願う。(マスク着用が拒否される場合は理解を求め、入れられない場合は中止する。マスクを十分に持ち参り着用願うなど工夫。)

◆ 2m(少なくとも1m)の距離をこる。互いになるべく正対しない座り方とする。

◆ 換気できるように窓、ドアを開けたいだけ。利用者や施設の意向を重視し、無理な活動を行わない。数10分の短時間訪問でもよい。

◆ 3人/チームの編成でも、調整のうえなるべく2人訪問を基本とする。

以上のとおりです。当分の間、恐る恐る進めていきます。



街で見かける

このマークは？



ほじょ犬マーク

身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマークです。

身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。「身体障害者補助犬法」が施行され、現在では公共の施設や交通機関はもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどの民間施設でも身体障害者のある人が身体障害者補助犬を同伴するのを受け入れる義務があります。



補助犬同伴可マーク

身体障害者補助犬の受け入れを促進するマークです。

NPO法人 全国盲導犬施設連合会がこのステッカーを作成・配布しています。

令和2年4月現在の補助犬実働頭数は、盲導犬909頭、介助犬62頭、聴導犬69頭です(厚生労働省HPより)。

9月の記念日は？

小倉義男

9月20日、お手玉の日です。

1992年のこの日、第1回全国お手玉遊び大会が愛媛県新居浜市で開かれたことから、日本のお手玉の会が制定。昔の遊びでお手玉はおばあちゃんから習ったりしましたが、今の子どもはどうなんでしょうね。段々と昔の遊びがなくなっていくのは寂しいですね。



小倉画

11月7日 HOPENI
てらこや食堂ラッキーズ

場 所：相模大野 5-15-27 (相模大野駅から徒歩7分)
開催日：月曜日から金曜日の週5日
(平日は毎日開催、土・日・祝日はお休みです)
時 間：午後4時半から7時(出入り自由、食事はお断り)
参加費：無料 (食事代もすべて無料です)
学校の後はラッキーズで楽しくすごしませんか。

「てらこや食堂ラッキーズ」はこんな感じで運営しています。
※子どもたちの宿題や勉強のお手伝いをしたい。
※保護者が仕事などで一人でお食事をしている子どもたちを仲間にして、楽しい時間をすごしたい。
※あなたが1手作りのお料理を、毎日食べてもらいたい。

相模大野駅
てらこや食堂ラッキーズ

◆お問い合わせ先：090-3220-8393 (石井)
◆主催：NPO相模大野子ども支援実行委員会

ました。これ以前には『私のヘア』『チャリ犬フック』なども出していました。石井さんは事業家としての行動力は半端ないし、年齢を感じさせないほどパワフルでマルチな活動をされているのには驚かされます。石井さんのお話にはぐんぐん引き込まれてしまいます。本当に魅力的な女性です。お忙しい中、取材御協力誠に有難うございました。また社協の鈴木さんにも大変お世話になりました。(山崎)



石井さん手作りの大和の冒険の紙芝居

Twitter

ぼらんていあ通信版

ツイッターコーナー

私の戦時中の思い出

高橋 功



私は福岡県大牟田市生まれで昭和17年に国民学校に入學しました。昭和16年12月に開戦したこともあり学校には配属将校が居て「日本は勝つ」と教えられ、毎朝、朝礼で奉安殿(天皇と皇后の写真等を収めている建物)を参拝し教育勅語を暗記させられました。

世の中は戦時色で男性の服装はカーキ色の国民服にグートルを巻き、女性はもんぺ姿でした。ラジオの放送は「大本営発表」大日本帝国陸軍は〇〇で米陸軍をせん滅せり」など大勝利の話ばかり。しかし戦況が悪化してくると金属類回収令が出て鍋、釜でも2個ある時は供出をせられました。さらに空襲対策として防火用水や防空壕の設置を義務付けられ、道路拡張のための強制疎開や隣組ではバケツリレーの消火訓練をしました。

私の家族は東京から疎開してきた祖母と両親・6人兄弟姉妹の9人です。米の遅配はしばしばで祖母の愛用枕の小豆を食べたこともありました。みそ汁に小麦粉を練って団子状にした「団子汁」や野菜の代わりに「のびのび」という雑草を入れたりして食べました。

大牟田の空襲は3回ありました。我が家も7月27日の空襲で2人死亡、重傷1人、軽傷1人でした。大牟田市の空襲の死者は3回で約900人といわれています。我が家の空襲の後、倉永といふところに疎開しましたが長崎の原爆の真っ赤な雲も見たし、終戦の玉音放送も倉永の農家のラジオでした。終戦後大牟田に帰ってきましたが、我が家も2人の葬儀や姉の入院で戦後も大変でした。戦争責任について考えると、やはり軍部の台頭を許した処に問題があったと思います。



クイズの答え

一郎に6000円、二郎に3000円。
一郎と二郎が働いたのは計9日間です。本当なら、一郎、二郎、三郎がそれぞれ3日間ずつやることを、一郎が2日、二郎が1日余分に働いたわけです。そうすると、9000円を3で割って、その2つ分を一郎に、1つ分を二郎に渡せばいいので、一郎に6000円、二郎に3000円となります。日給3000円ってことですね。



クイズに挑戦!



今月は、算数の問題です。涼しいお部屋でじっくり考えてくださいね。

一郎と二郎と三郎が共有する畑があり、それぞれ耕すことになりました。しかし、三郎がツガをしたので、一郎が5日、二郎が4日働いて、代わりに三郎が、2人に9000円払いました。

さて、このお金は2人でどのように分けるべきでしょうか？

理事會報告



8月8日(土) 定例理事會(理事の名出席)

一. 現状の確認

・新型コロナウイルス感染症予防対策の経過と現状

二. 報告事項

◆各委員報告は会議中止などにより特筆すべき事柄は無し。

◆その他

・ほかほかからあひつエスタは中止とし、8月12日本部役員會議で今後の対応を検討する。

三. 審議事項

◆予算執行状況の確認と検討

・市社協の助成金決定、手続きを完了した。

◆ビデオの制作について

・制作実行委員會を立ち上げ第一回実行委員會を8月14日開催予定

◆家具転倒防止活動についての経過確認。

・危機管理課に杉本理事が向きボテ協会の立ち位置の確認をする。

◆表彰内申について

・相模原市社会福祉功労者、市社協社会福祉活動推進功労者の表彰者は正副会長の案を了承した。

◆役員選出管理委員會設置及び計画案について

・役員選出管理委員會設置及び計画案は了承された。

(次回理事會 9月12日(土) 10時より)

Information コーナー



子どもたちの支援に関心がある方、地域で子どもたちを支えるために一緒に学びませんか？

発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座(基礎編・実践編)

基礎編は、地域社会の人たちが、子どもたちのニーズに対応する力を身につけたい方のための講座です。

実践編は、地域コーディネーターとして支援ができる人材と体制作りをめざすための講座です。

日程: 基礎編9月3日(木)~9月24日(木) 全4回 *第3回のみ9月18日(金)

実践編10月1日(木)~11月19日(木) 全8回 *第3回のみ10月16日(金)

時間: 9:30~12:30

会場: 神奈川コミュニティカレッジ講義室 (神奈川県民センター 11階)

受講料: 基礎編 6,000円 実践編 12,000円

定員: 30名

受講対象: 神奈川県に在住・在勤・在学の方 県内でボランティアやNPOなどとして活動又は活動を予定している方

申込締切: 基礎編 8月20日(木) 実践編 9月16日(水) *基礎編を受講しなくても、実践編だけでも可、また定員に満たない場合は、申込締め切りを過ぎても受付可。

申込方法: 電話、FAX、ホームページのメールフォーム かながわコミュニティカレッジ事務局 (TEL)045-620-0743 (FAX)045-620-0745

かながわコミュニティカレッジ 検索



あなたは街で白杖を持って歩いている方を見かけたらどうしますか？

視覚障がい者の理解と誘導入門講座

開催日時: 令和2年9月27日(日)

13:30~16:30

場所: 相模原市民ギャラリー 会議室

JR相模原駅セレオ相模原4F

内容: 視覚障がい者の理解と基本誘導体験など

費用: 200円(保険及び資料代)

申込方法: 電話又はメールで、氏名と住所・電話番号(申込順10名)

申込受付: 8月1日から受付開始

申込み 電話: 090(8103)2126

(肥田・問合せ可)

ささの会連絡メールアドレス

ywfj734@ybb.ne.jp



*受講前には、事前に検温の上、マスク着用をお願いいたします。また、体調の優れない方に関しましては、受講をご遠慮いただきますようお願いいたします。体験はフェイスガード、ビニール手袋、消毒液等を用意します。



主催: 相模原誘導グループ ささの会 後援: 相模原市社会福祉協議会

盲人のための国際シンボルマーク

会員のひろば



ダウン症の息子と井田



たなか たかこ
田中 孝子

「ロナの収束も見通せない日々、長い梅雨、豪雨と災害。それが終わると連日の猛暑。皆様お元気でお過ごしですか。」

私の息子はダウン症。昭和45年の月生まれ。もうすぐ50歳になります。

東京都出生。生後3か月で誰一人知り合いのいない相模原市に引っ越してきました。出生時ダウン症と医師に告げられず、幸せの頂点にいたがどこか変だった。風呂屋で息子を見ながら「おやめやめおつ人だに何かしら不安を感じていた。生後3か月の健康診断時、保健所の医師から「蒙古症?」(当時はそのようにも呼んだ。ちなみにダウン症とはダウン症候群を発見したダウン博士の名前から付けられたもの)。大きい病院に行くようにと言われ国立相模原病院(当時)を受診。染色体の検査のできる神奈川県立でも医療センターを紹介された。

横浜市六ツ川の丘の上立つ病院へ。息子をおんぶして丘の上を見つめたのはついこの間のようです。検査の結果は立派な「ダウン症」。それから親子の2人3脚が始まったのです。

3歳から相模原市の訓練施設へ(この施設は、障害児を持つ親たちが、この子たちに幼稚園のよ



さんだったのです。ふれあいの日々があったおかげで、放送が入

うな集団生活をせたいと立ち上げたものが始まりでした。その後就学前の障害児の生活訓練、機能訓練の場として建設された『陽光園』へ。小・中学校は地域の特殊学級へ(当時はそう呼んでいました。高等部は相模原養護学校へ進んだ。)

小さい頃から自閉的な傾向のあるダウン症と言われ、「こだわりが強い」子の子だった。未熟な親とダウン症の子、手探りの子育てでした。あちらにぶつかりこちらで失敗、沢山の人たちに助けられた子育てでした。

「ひばり放送」にお世話になった事。ある日、いつものようにバスに乗って作業所に出かけた。作業所から「着かない」と連絡があり、家族、仲間たちとあちこち探したがどこにも居ない。もちろん交番にも。交通事故の様子もない。午前中から探しいよいよ夕方になった。当時始めて間もない、市の『ひばり放送』で呼びかけてもらった。すると30分もしないうち相模大野の交番に保護されたご連絡が入った。其の頃通っていた作業所は、JR相模原駅近く。なぜ相模大野に? これには理由が。その前日用事で相模大野へバスで行ったのだ。その為息子も混乱し、大野方面のバスに乗ったのでしよう。持参していた弁当をバス停のベンチで食べ、ひたすら座っていたのです。あちこち動き回らなかつたのは幸いなことでした。ひばり放送が入ると、息子を見つけて下さったのは、中学時代の普通級の生徒さん。昼休みになるまで障害学級に遊びに来て交流していた生徒さんだったのです。ふれあいの

るすべし見つけて交番へ知らせて下さったのです。ふれあいの大切さを実感した出来事でした。

息子の好きなもの。タオルを「ラリ」する事、鳩サゲエさん、ちびまる子ちゃんの歌、温泉、壺湯に首までつかりつたりする、そしてビール。温泉の本を見ては『温泉いこー』と言っています。早く安心・安全な日常になってほしい。今も息子と同じ好きなもの「温泉に入るとビールが飲みたい」と親子で思っているのです。これからも沢山の人たちに支えられ共に歩んでいきたい。



相模原ボランティア協会 9月の予定

日	時間	内容
6(日)	10:00~	HC委員会
7(月)	10:00~	DVD制作実行委員会
10(木)	10:00~	講座検討委員会
12(土)	10:00~	定例理事会
15(火)	13:00~	広報委員会ぼら通部会
19(土)	13:00~	事務局委員会
19(土)		わくわく49号発行
23(水)	13:00~	ぼら通9月号印刷
24(木)	13:00~	ぼら通9月号発行
30(水)	10:30~	傾聴委員会



ボランティアさん募集！

高齢者施設での書道の指導

内 容 書道の指導をお願いします。
 日 時 月1回、木曜日の13:45~14:45
 場 所 チャオデイサービスセンター
 (中央区相模原4-7-14
 エスプラザビル2階)
 持 物 特にありませんが、汚れても良い服装でご参加ください。

連絡・問い合わせ先
 相模原ボランティア協会あじさい連絡所
 電話 042(759)7982
 相模原市社協 中央ボランティアセンター
 電話 042(786)6181



《今月のイラスト》
 ……小さなライダー！……



山口尚美画

ご寄付をありがとうございました。
 皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切に使用させていただきます。
 <7月の寄付者>
 6名の皆様からご寄付をいただきました。
 <7月の寄付金>
 総額 7,140円でした。

あらほんと？



地球上から消えつつある動物たち

絶滅を危惧されながらも、注目さえされずに苦しんでいる動物は数千種にのぼる。その多くはパンダやトラといった、保護活動を象徴する動物のようによく知られているわけではないが、生態系に不可欠であることには変わりはない。

絶滅の危機にあるとされる3万種のうち28%が爬虫類で、7種類いるウミガメのうち6種がこれに含まれる。今後、こうした過小評価されている希少種に、もっと光を当てる必要がある。

- ★危惧種 コアラ（気候変動や生息地の分断、感染症のクラミジアや森林火災などによって激減している）
- ★近絶滅種 タイマイ（卵や肉、べっこう細工の原料になる甲羅を狙った乱獲により、成熟した雌は2万5000匹を切ったとみられる）
- ★絶滅危惧種 ホオジロカンムリツル（かつては10万羽以上いたが、ここ35年で約3万羽に減少。肉や卵を目当ての密猟に加え、湿地の破壊にも苦しんでいる）

*ナショナルジオグラフィック日本版より

編集後記

先日、お回かいに住んでいらした若い家族が、引っ越しをするので挨拶に見えられた。挨拶とともに、いただいた品物が、『消毒シエル、アルコール入りハンドソープ、アルコール入りキッチンペーパー』。

このコロナ禍ではのアイディアだと、思わず大笑い。ちよっぴり書きを忘れたひと時でした。

ぼらんていあ通信も、コロナ禍のため、発行枚数が落ちつきません。早く平常に戻ることを願っています。

(恒)